

会 議 録

会 議 の 名 称	令和3年度第1回弘前市立博物館協議会
開 催 年 月 日	令和3年11月22日（月）
開 始 ・ 終 了 時 刻	午前10時から11時50分まで
開 催 場 所	弘前市民会館 第2小会議室
議 長 等 の 氏 名	葛 西 徹 委員長
出 席 者	委員長 葛 西 徹 副委員長 島 内 智 秋 委 員 小 嶋 義 憲 委 員 瀧 本 壽 史 委 員 出 佳 奈 子 委 員 齋 藤 昭 委 員 佐々木 康 之
欠 席 者	委 員 北 原 かな子
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	博物館長 石 岡 博 之 館長補佐 小 林 純 子 総括主査兼学芸員 三 國 良 一
会 議 の 議 題	(1) 令和2年度事業報告について (2) 令和3年度事業計画及び経過報告について (3) 令和4年度事業計画について
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	令和3年度弘前市立博物館協議会資料
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等)	議長：それでは皆様のご協力をよろしく願いまして会議を進めてまいりたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。まず、本日の出席者数が現時点で6名でございます。また1名遅れておいでになるかもしれませんけれども、弘前市立博物館管理運営規則第3条第3項により会議自体は成立していることをご報告申し上げます。それでは直ちに案件の審議に入ります。次第に従って進めてまいります。お手元の資料、始めに案件（1）令和2年度事業報告について、事務局の方からからご説明をお願いします。 事務局：資料説明 議長：ただいまの説明について、質問やご意見がありましたらお願いします。 小嶋委員：市内の小中学校の観覧で学芸員が解説をするという事業がございますが、この人数を見ると青柳小学校3人とか西小3人と、これはどういうことか。 事務局：これは児童が博物館に見に来る場合でして、学年や学級でまとまってくる場合は比較的人数が多いですが、この場合は班の単位や小さい単位でお見えになったということです。 小嶋委員：博物館が行って説明するというのではなく。 事務局：見に来た時のことを書いたものでした。 小嶋委員：出前講座のところで、東目屋小学校で8人しかないということですか。 事務局：はい。 小嶋委員：これは例えばクラスの人数が8人ということか。

事務局：この時はおそらく6年生の人数と思われます。

小嶋委員：わかりました。

瀧本委員：博物館のお宝出張ということで、そこに郷土の歴史・卍学の推進とありますけれども、これは博物館側からの推進ということかと思えます。これは齋藤委員にお聞きしたほうがいいかもしれませんが、小中学校の立場から、どのくらい卍学を意識して博物館を利用していますかということ。もし情報が得られているものがありましたらお聞きしたいです。利用する立場として、卍学をどう意識して博物館に来ているのか。卍学は博物館だけの話だけではないと思う。そここのところで博物館を利用する意味合いというか、博物館大事だということで来ているものもあるだろうし、博物館のこういう面を卍学で利用したいなあというのものもあるだろうし、立場によって卍学の博物館の活用の仕方がちがってくると思います。そこらへん学校側からの意識というか、その辺情報が得られているならお聞きしたい。

齋藤委員：卍学は歴史だけではなくて、もちろんさくら、ねふた、りんご、という風なものも内容としてあるわけです。博物館のお宝出張に関しては歴史というところだと思うのですが、これ去年から始まった事業ですよ。

事務局：去年からの事業で、去年だけ実施しています。

齋藤委員：今年はやらないのか。

事務局：今年は、まずこの事業はお宝に直接触れて見てもらうというコンセプトだったのですが、結局コロナの関係で学校を訪問してプラス接触するという部分で、ちょっと今このタイミングではないだろうという部分があり、今年度は中止しています。ただ、批判的に悪いものではないのですが、瀧本委員がおっしゃられたように、学校側のニーズとして、どういうものが見たいとか、そういうのが測りかねている部分がありますので、そこについては機会をみつけて意見を聴取しながら再開していきたいと思っています。

齋藤委員：去年からの事業で、校長会の方で博物館の方から説明された、で2つの学校が参加された、校長会の時もこういう資料はもっていきますよという話はあった、ただ、そこが学校のニーズと合っているかは難しい問題があります。県立郷土館の事業は3年生のむかしのくらしの学習との関連で行っていて、市で行っていただけるのならとてもいいと現場としては思っていたが、そういう事情があったというのはわかりませんでした。

事務局：今休止中でございました。

小嶋委員：でも実物に触れることは本当は素晴らしい。絵画にしても、写真やコピーでは全然違う、実際のものを見るということは大それたと思うので、展示の仕方、説明の仕方なんか少し工夫をすれば何とかなるような気がするので、今後検討してみてください。

事務局：何かメリハリのあるもので検討したいと思います。

瀧本委員：県立郷土館の方では小学校の1年生から6年生までの指導要領に合わせて、何年生が何やるとかを把握したうえで、3年生はこれで、6年生が来たらこの資料が教科書の中のこれに合いますよ、と授業とつながるような資料の紹介をしているので、使いやすさから言えば卍学のほうも、学年ごとに配列できるような形で示していけば活用しやすいのかなど。授業の一環としてやるのはほんとに使うもので、そここのところ工夫していただいてと思います。小中学校で見学に来ているようですが、何年生が来るとか、何年生が多いと

か、来る学年は把握していますか。

事務局：はい。比較的高学年が多いです。やはり5・6年生、教科書で歴史なり地元のことを扱い学んで理解が深まる年齢層がいらっしゃる場合が多いと思っています。

齋藤委員：校外行事との関連で、例えばうちの3年生なんかだと雪灯籠まつりを見学しつつ雛人形を見に来たということがあります。ですから、あとからお話しようと思ったのですが、利用を考えた場合、学校行事との関連を考えれば、低学年でも見学することはできるのではないかなと思います。

葛西委員：この規模の博物館としては教育普及活動というのは全国的に見ても質の高いものをおやりになっていると思っています。子供向けのパンフやメニューなどはありましたでしょうか。

事務局：そういうものはございません。子供向けのものに関しては作ってないです。今年のイベントで類似のものを若干作ったのですが、クイズ形式で作ったりはしたのですけれども、出しているものについてはないです。かなを振っているくらい。実際出学のテキストがものすごくよくできているので、それで概観なり歴史の流れがある程度把握できるものですから、博物館として、プラス常設展以外の部分は毎回変わるので、それに向けて子供向けのキャプションなりは作成していません。可能であるとする常設展については可能かと思えます。

葛西委員：そういうものがあるとまたかわってくるんじゃないかと思えます。

事務局：まずやるとすれば常設展の部分から検討してまいりたいと思います。

小嶋委員：それから特別企画展の紹介記事内容すばらしく非常によかったと思っています。

葛西委員：資料の収集・購入とかについて、市民の方からこんなことを聞かれたことがあるんですが、博物館に収蔵しているのは、みんな市で買っているのかという風に聞かれたことがあり、後援会でもと話したことがあるが。昨年度何点か購入されていますけれども、後援会と市と購入の金額の割合はどうでしょうか。

事務局：割合というものにつきましては、いままでは慣例的に金額が大きいものは後援会にお願いしてそれ以外のものについては市で直接というようにしていたが、具体的な取り決めは一切ないです。

葛西委員：では具体的にはどちらかという市ではそんなに購入の金額は多くはないということですか。

事務局：実績として、金額としては、令和2年度は36万円くらいの購入の内訳になっています。全部合わせてということです。年によってバラバラ。古書店でありますとか古物商から出ものがないかぎり購入しませんので、そこにつきましては年によってまちまちでございます。

葛西委員：では、かなり1点数万円くらいのものからあるんですか。

事務局：書状とかは特別な場合を除き値がそれほど高くつきませんので、比較的、こちらは安いに越したことはありませんので、令和2年度に関しては36万程度ということになっております。

小嶋委員：寄託寄贈の件で、以前聞いていた話で、寄託は受け付けていない、収蔵スペースがないためということだが、昨年あったということは、スペースがあいたということか。

事務局：そういうことではなくて、原則は今でも新規の寄託は受けていないです。

小嶋委員：これ新規なのではないの？

事務局：原則として新規は受け付けていないということです。寄託に関して、例えば、所有者がお亡くなりになって、ご遺族から書類いただいた場合もカウントされます、とかそういうことがございます。原則として受け入れていないということです。寄贈すらお断りしているような状況です。先の話ですが、今年度新聞にのって寄贈を受けたものは、清藤様のところからは、そもそも寄託であったものを寄贈いただいたというもので、収蔵スペースに移動がないのでそのままお受けできたということもございます。

小嶋委員：だけどもったいなくないか。いいものを寄託・寄贈するということを断るといことは。確かにわかるが、例えば高岡に行けば収蔵スペース空いている。

事務局：お断りしたのは、あくまでも博物館の対象になる、歴史館はあくまでも江戸時代のものについてということですので、近世近代の絵画等については博物館でお受けするしかないものなのだが、そこについてお断りしているものは多数あります。

小嶋委員：もったいないな

事務局：私たちとしましては、それを収蔵したとしても、展示する機会がほぼほぼないような状態で、逆に人の眼に触れない絵画の方がもったいないということでお断りしています。それくらいでしたら、お好きな方が買って居間に飾るですとか、他の展示に使うとか、その方がよほど作品が生きると実際思っております。

小嶋委員：そういうものを展示するスペースとか機会を設けたほうがいいのではないか。

事務局：常設展を縮小したら何とかスペースができるが

小嶋委員：小さいほうのスペースあるでしょ、あのあたりを使って貴重なものであるとかそういうものがあれば死蔵するよりはせつかく館にあるものであれば展示してほしい。

事務局：そういうものについては機会を見つけて展示する所存ではあります。特に今ご本人が亡くなってご遺族から相談を受けることというパターンが増えています。終活を含めて多々ご相談いただくが、現状としては厳しい。弘前は、ギャラリーや展示スペースが多い市ですので、そういうところを活用していただいて、というようなご案内も差し上げていますし、少なくとも貴重なものの寄贈を断るといことはしないつもりですので。

葛西委員：収蔵庫には限りがあるし、拡大できないですもんね。

瀧本委員：小嶋先生おっしゃるところもわかるのですが、館長に是非お願いしたいのが、博物館の役割は、展示もひとつなのですが、調査研究もあります。寄贈・寄託だとかそういう情報がどんどん入ってくるという博物館においては、情報の窓口になって、また学芸員があちこち回りながら、どこに何があるのかという情報収集を継続的に続けてほしい。弘前市内にどうゆう状態で資料があるのかの情報を積み重ねていただければ大変ありがたいなと思います。

事務局：現在も寄贈前提で調査しているものが2・3点ほど大口でございまし

て、調査にいつて確認して、最終的には正式にお受けするというこゝで調査しているものもございます。文化財課と情報共有しながら、本当に貴重なものは受け入れしますので、その点はご安心ください。江戸時代のものについて、歴史館へ動かせるものは動かして、収蔵スペースを確保しながら博物館でないと思われぬものを含めて、整理していこうと思つているので、受け入れない話ばかりでしたが、これは貴重なもの・市外に出せないものにつきましては優先的にスペース工夫してでもやっておりますので、そこに関してはご安心ください。

小嶋委員：私がなぜ言つたかというこゝで、博物館の設置の理念、郷土のこゝいう優れた文化遺産を維持保存するこゝいうのは博物館の使命ではないかと思つたから、それをむげにこゝいうのは避けなければならないと思つたから聞いたもの。

出委員：そうかもしれないですけども、なんでもかんでも収蔵するのはそれは無理な話で、博物館が収蔵して展示するものゝ質を見極めると、博物館の仕事だと思つたので、そのあたりをきちんとしていられつやるとこゝいうことならいたしかたないのではないかと思つます。水準は当然あり、それをクリアするものは集めていられつやるとこゝいうことであれば、なんでもかんでも残つたものは全部引き入れますこゝいうのは無理ですから。

事務局：先生おっしゃつた通り一定水準以上のもは他に譲らないこゝいう気持ちでいて、そこについてはご安心ください。寄贈いただいたものは、来年度以降早い機会に市民の眼に触れるよゝうな機会を設けていきたいと思つている。

齋藤委員：絵画に関しては結構ご遺族から寄贈があります。小中学校にも、こゝいう絵がありますから欲しい学校ありませんかとくるんです。朝陽小学校でも去年長内亮先生の五重塔の絵、今年奈良岡先生のやぎの絵をいただいています。これは博物館に寄贈するこゝいうものではないかもしれないが、教育委員会でも寄贈があれば、学校に情報提供してくれて、もちろん学校の飾るスペースの問題もあるが、朝陽小学校はギャラリー体育館の上があいていたのでほしいなと手を挙げたらあつて2件もらいました。こゝいうことをやっています。

事務局：逆に、子どもさんとか人目に触れるところにあるこゝうによつて、それに触れたこゝうによつて、私も絵をやつてみたいとか、どうやたらかけるんだろつとかにつながつていくかもわかりませんので、いろいろなところへ声掛けさせていただいていますので、そこについてはご理解いただければと思つます。

議長：もしほかにも質問や意見はありましたら、進めていつて、最後のところへしましょう。どうしても今おっしゃつた方がいゝこゝう方ございますか。

(なし)

それでは次に、案件(2)令和3年度事業計画こゝいうよりも経過報告が主だと思つますが、事務局から説明をお願いいたします。

事務局：資料説明

議長：ただいまのご説明について、先ほどの案件と関連するものがたくさんあると思つますが、質問ご意見お出しただけたらと思つます。

事務局：数字の補足です。きもの展は、前期が会期が43日て3,155人の観覧者となつておりました。デジタルKIMONOミュージアムに関しても183名の方へご協力をいただき、全観覧者の5.8%が着物で参加していただいているとなつ

ています。ただ、着物なのですが、今日はお見せする着物ではないということでお断りするご婦人も多くて、実際に着物で来た観覧者はもっと多くなっています。

出委員：着物は自分で来ていくんですか？それともここにきて着付けをしてもらえるのですか。

事務局：それに関しましては、以前弘前城の方でも着付けとかを有料でやっていたものもありましたが、やはりコロナで接触というのもあって、あくまでも自分で着ていただく、さすがにこちらで着替えた方はいなかったのですが、着て来ていただくとしています。お寺のお坊さんから稽古帰りの道着の方から多数、一度公式インスタグラムをご覧いただければ多数掲載しているのでご覧いただきたいと思います。

出委員：新型コロナウイルスの流行がなく状況が許すようでしたら、着付けもやったらどっと人が来るでしょうと思いました。

事務局：一度洋装で来てみたらそういうことなので和装で来たという方もいらっしゃるし、せっかくの機会だから、冠婚葬祭がなければ着物を着る機会は少ないのですが、せっかくの機会だからということで着ていただいた方も多かったので、きっかけになったとは思っています。

出委員：ミュージアムライブのチェロとコントラバスの演奏者はどういうかたですか。

事務局：弘前交響楽団の2人で、以前歴史館が平成30年にオープンして、まだ名前も場所も知られていない状況だったので、通常イベントは展示に関連したものをやるのが多いが、それにかかわらず幅広く来ていただきたくきっかけが欲しくて始めました。その中で博物館でも同じことができないかということでミュージアムライブという名前で今回初めて行ったものです。

出委員：場所はロビーですか。

事務局：ロビーです。ロビーの壁側に向かって、通常講演会とかはガラス窓の側の方でやるのですが、なぜ今回こちらでやったかということ、彼らが休館中にいろいろな場所で実際演奏してみたところ、あの場所が一番響きが良かったからということで、あの場所天窓吹き抜けがあるせいで音の響きが良かったと。前川建築としては、中でコンサートとかやるというコンセプトもありまして、趣旨に合っているのだな、この場所が一番いい音が出る場所なのだなど、ロケーション的にはおかしくなったのですが、この場所でやったという経緯はあります。

出委員：これはあくまで博物館主催で、演奏のようなものは博物館主導でやっていくのか、例えば場所を他の方に貸して他の方にコンサートをやってもらうのか。

事務局：博物館主催でやっていきます。ミュージアムライブというのは、音楽だけではなくいろいろなもの含めて生でやるという趣旨なので今後ご期待いただきたいと考えています。

葛西委員：音楽だけではないということだが具体的なものは何か。

事務局：今考えているのは、ひなまつり展の中でお雛様に関連した本を紹介しつつ演劇形式の朗読会を開きたいと思っています。

出委員：それは子ども向けではなくて。

事務局：決して子ども向けではないです。

出委員：子ども向けに同じようなことをやっているところもあるが

事務局：子ども向けにやるのでしたら、子ども向けのブックトークなら一人でもできるんですが、いろいろな人に幅広に来ていただきたいというのがあるので、今回はそういうものを企画して、様子を見ながらいろいろやっていきたいと思っていました。

出委員：子どもの来館者を増やすということが話題に上っていて、そういうイベントとかがあると、ブックトークやお話会くらいですと小さい子が来たいというかなど。

事務局：なぜ朗読会というものを考えたかという、実は単館の博物館だけではなくて、近隣に郷土文学館とか、図書館、大型の書店などもあるので、そういうところに声掛けをして、紹介した本を売ってもらう、展示してもらうということで宣伝し、聞いてみて見てみて興味を持った本を手にとっていただくということにつながっていきたいと思っています。単館だけではPRも含めて難しい部分があるし、逆に博物館でこういうことをやっているんだということになれば声をかけていただけるかもわかりませんし。

齋藤委員：資料を持ってきたのでちょっとお話ししたいと思います。まず企画展1の絵図・地図・写真展に行ったのですが、先ほどから市のホームページのお話が出てきまして、市のホームページの中に、学校でもホームページ出せるんです、それで朝陽小学校のホームページの中にこういうページを作って載せて親御さんに知らせているわけです。4月の地図展は、朝陽小学校は、地図の中に書かれているんですね、ですから子どもたちが、自分のうちがあると興味を持って見学していました。そして三上学芸員の話はパワフルで子供たちがひきつけられてすごく楽しく見学させていただきました。この展示は写真撮影自由だったので、子どもたちもまた来て写真撮ろうとか、私もたくさん写真を撮らせていただきました。次のページは、そのときのことを新聞に書いたもので6年生が書いたものです。新聞を書いた子が、自分の家あったとよろこんでいました。次の芳年展は、子供たちは浮世絵に興味があるのだろうかかと半信半疑だったが、すごく勉強になったんです。子どもたちの興味はいろいろなところであって、絵が好きな子は芳年の構図とか色使いとかに非常に興味を持っていました。あと、弘前の子供たちって、必ずクラスに何人か必ずねぶた大好きな人がいて、ねぶたとの関連ということですごく興味を持っている子がいました。あと、浮世絵は当時新聞の役割もあつたということで世相を反映していた、横浜新橋の鉄道開通の様子とか、あるいは西南戦争で西郷隆盛が自決した場所が海の上での絵もありましたが、それがフェイクニュースだったとか、いう話もすごく興味を持っていた。また当時の暮らしを表したもので、芳年展の展示作品の中に、おもちゃ屋さんの浮世絵があつて、当時おもちゃ屋さんでこんなものを売っていたんだと子供たちがそこにずいぶんひきつけられていて、ほんとにさまざまな興味を持っている子がいろいろな絵にひきつけられていた、すごくよかったと思いました。血みどろ絵のコーナーを作った配慮はよかったです。ただ、見に来た時に、校長先生あそこは入れないと聞かれて、うちの人と一緒に来た時にと答えて、その時見れなかった子は残念がっていました。最後の資料は、東奥日報が共催していた事業なので、東奥日報の方とちょっとお会いした時に、「今度見に行くんですよ」と言ったら「取材させてください、うちで共催しているので」となって新聞記事になりました。こ

ういう様子もどんどん伝えていければ、市民の皆さんの興味も湧いてくるのではないかと思っ、今後もどんどん情報発信していきたいなと思っいます。来月きもの展見に行きますよろしくお願ひします。あと、私さっき言おうとしたのが学校行事との関連というところで、例えば10月8日の和徳小学校は全校遠足で来ているんですよね。そういう学校もあるようです。うちの学校も、実は10月5日に全校遠足に来たのですが、6年生博物館行くのかなと思ったら、石垣の展示を見に行っ、それで博物館にはお邪魔しなかつた、さきほどちょっと言いたかつたのは、そういう学校行事との関連を考えていけば、もっともっと観覧者が増えるのではないだろうかと思っいます。ですから学校として、4月に企画展の情報入ったら、学校としても、この時こういうのやっっているんだと把握すれば、学校行事との関連でもっともっと利用者増えるのではと思っっていました。簡単ですけども。

事務局：今の件に関しましては、今まで連携事業はこれまで7月の小中学校長会議と遅いタイミングでしたので、まず2月の小中学校長会議でスケジュールの関係に関して情報提供できればと思っっています。ただ、予算の関係がございまして、スケジュール感に関しましては、早め早めに出して学校行事にあてはめていただきたいと思っっています。見ていただくとわかるのですが、10ページの学校観覧のところ、10月8日に3校重なり、うれしい悲鳴でした。

佐々木委員：その件で、私以前市民会館で運営をやっていたのですが、市内の中学校はバスで来て市民会館で音楽、合唱の発表をやるので、その時に、ついでというのは何なのですが、そのタイミングで来るというのは一つの案でどうでしょうか。

事務局：それを実は考えたのですが、最近の合唱コンクールは来たら寄り道せずまっすぐ帰るなどそういうコロナ対策をしている学校もありまして、それが落ち着きましたら、市民会館のホールの使用スケジュールは事前にわかりますので学校向けにこういうのをやっっているので時間があつたらよってくださいというアナウンスはしていきたいかなと思っっていました。コロナで、学校の対応はどうなのか聞いたところ寄り道しないとなっているようで、じゃちょっと無理だなと、ただ、市民会館で踊りの発表があつたときは博物館のチラシを持っていき、場内アナウンスもさせていただいたので、こういう取り組みは始めているので、コロナが落ち着いてきましたら、学校向けにもやっていきたいと考えています。

佐々木委員：連携してもっとやればいいのではないかと思っいました。

事務局：今年度の事業ということで、さきほどの前川カードについて少しご説明したいと思っいます。これにつきましては、博物館の管轄ではなく、都市計画課が主催して行っているものです。趣旨としては、木村産業研究所が文化財登録になったことを記念して、カードを作ってまちあるきというようなコンセプトで、11月6日（土）から配布を開始しています。無料で配布ということで、駅前観光案内所、まちなか情報センター、観光館、緑の相談所、市役所、市民会館、博物館が配布場所になっております。

葛西委員：全部ためるとどうのこうのは。

事務局：担当者は、全部ためると記念になると言っっていました。

小嶋委員：前川國男の建造物においているのね。

事務局：ただ、中央高校や斎場などおけない場所も多々あるので、今言っただ箇所

でのみ配布しているということで、市立病院も置いていないです。

瀧本委員：収蔵資料の質の問題が出ました。資料購入について、確かにこの資料で金額妥当かどうか、学芸員の方がいろいろな情報を集めながら、相手もあるので、様々考慮して決めておられると思いますが、例えば県立郷土館なんかでは、資料購入評価委員会を作っています。金額の多寡にかかわらずそういうシステムを作っておいた方が博物館としてはいいのかなと思っています。今年来年すぐではなくてもそういう方向で検討していただければと思っています。

事務局：今後検討させていただきたいと思っています。ただ、現時点であまり低い金額のものまで全部やるということもありますので、瀧本先生の意見も踏まえて検討してまいりたいと思います。

小嶋委員：検討することに関して、後援会のお金はたかが知れているのではと思っているので、もっと高価なもの、弘前に絶対に必要なもの、これは大事なものとなったとき、市で予算措置してくれるものかどうか。

事務局：市の予算は 200 万円超予算措置されてあるので、その金額までのものだったら買えます、ただ、最近それ以上の出物とかそういうものに当たったことがありませんし、声掛けもいただいていないので、もし予算の範囲内で必要なものがあれば声をかけていきたい購入していきたいと思っているので、その際ににせものをつかまされてはいけないので、担保するような委員会というのは高額なものになればなるほど必要なのかなあとと思います。

葛西委員：後援会の方からはこれまでやっぱり 100 万 200 万単位のものは後援会の方で。

事務局：そうですね。今回の寄贈品の中の 3 点の 1 品は後援会が購入して寄贈を受けたもので 165 万円となっています。で、もう一つの寄贈は清藤様のところの参勤道中記など数百点のものになっています。

事務局：歴史館の方でも資料購入の予算はあるが、購入の実績が金額の小さいものしかなかったのものでそういうものの必要性を感じなかったと思っているが、終活やら所有者がお亡くなりになったときに合わせてものが出てくるということが最近増えてきていますので、しっかりした体制を作っていきたいと思っています。

議長：それでは、案件（3）が残っておりますので、令和 4 年度事業計画について、事務局から説明をお願いします。

事務局：資料説明

補足として、令和 3 年度のところで 2 つほど言い忘れたので、情報発信として、ミュージアムライブの演奏風景の動画をホームページにアップしております。そのほかに、ホームページ以外の情報発信として、グーグルマップのオーナー登録をしてそこから写真投稿したり情報発信したりして、市のホームページからだけではなくいろいろな方向から情報発信していったら、グーグルマップのいいところは、この写真何人見たとかアクセス数上がっているよとかの報告がオーナーに上がってくるので、それを見てもう少しこの写真上げようかなとか、あと、グーグルマップを見ると館の写真が来るのですが、季節が変わるごとに、展示が変わるごとに写真を変えているますので、やはりそうすると見る人を引き付けると思っているのものでそういう情報発信はさらに続

けていきたいなど考えていきたいと思っています。

令和4年度の事業計画としましては、やはり本物を見ていただきたいということで、例えば、弘前市の文化財登録になったものを展示していくでありますとか、あとは来年はねふたが記録に出てから300年なので、それに向けた何かやっていきたいと考えています。それに向けて単なる展示だけではなくて、例えば文化財にしましても無形文化財もございまして、そういうものを中にご披露するでありますとか、そういう伝統的なものを継承していく、見てもうらうというような幅広い展示を考えているのでよろしくお願いします。

議長：いろいろ期待が持てそうで、楽しみですけれども、ただいまの説明について、案件(3)でございましてけれども、これまでのことを含めてご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

島内委員：来年度たくさんの若い方にも足を運んでいただきたいと思っています。そのようなことで参考になるかどうかわかりませんが、先日秋田ふるさと村に行きまして滝平二郎展に行ってきました。そうしたらやはり何が人気かといったら、写真スポットで、モチモチの木の写真となっていて、みんな撮っていて、それをSNSでたくさん発信されていたので、もしそういうところが1箇所あれば、そういうところに行ってきたよというのが、多くの人に宣伝できるのかと思いました、衣装を着てみて写真を撮るとか、どうかと思った次第です。

事務局：それに関しまして、写真スポットといたしましては、よく観光地にある顔出しではないですが、今やっているデジタルKIMONOミュージアムに関して、写真スポットフォトスポットを作りました、それは今回の展示だけではなくこれからもタイトルを変えて毎回出していこうと考えています。着物を着ることに関しては、今まだコロナの関係で接触があるのでまだ時期尚早かなと思っていますが、フォトスポットは今後も確実に置く場所を考えながらやっていこうと思っております。言うのを忘れてましたが、今年度の事業でギャラリートークを12/4に行いますが、きもの展担当の学芸員が、私物の狩衣を着て展示解説いたします。ホームページ等に写真が載っているので、実際にそういうものを着た人を見る機会はないので、解説も楽しみにしていただきたいと思うのですが、こういうことも含めて集客に励んでいますので、今島内先生がおっしゃったアイデアなどあればお願いできればと思います。

出委員：いのっちはやっぱり人気があって、以前写真をとってインスタに挙げたことがあったら人気がありました。ああいうところに写真スポットがあると、ハッシュタグとかつけてやると集客とか県外の人たちの興味関心上がるのではないかと考えていました。

事務局：いのっちグッズにつきましても前川グッズにつきましても今後いろいろ作って売ろうと思っています。いろいろ手を変え品を変えやっていきたいと思っております。いのっちは、縄文の世界遺産登録以降問い合わせも多いので、ひっこめないで、ずっと、今年度もひっこめる予定ないので、展示していきたいです。その代わりに、引き合いも多くて、今九州に出張中で、実は今あそこにあるのはレプリカでございまして、クリスマスに帰ってきます。次の展示からはまた本物が見られますので、そういう機会をとらえてネットにアップして、本物帰ってきたらやっていきたいと思っているのでよろしくお願いします。

出委員：子ども向けのパンフレットは、子供の興味関心を引く、ちょっと砕けた感じの子ども向けパンフレットを作って、小中学校に配るのは大事なと思いました。というのは自主見学で来ている学校のお子さんたちがいますが、自主見学は生徒が行く先を決めて考えているので、行ってみたいと思うような資料があると、子供たちの足がこっちに向ききっかけになるのではないかと思います。子どもむけパンフというのは、予算が許せばぜひあるといいと思います。

事務局：お金の心配はしていないが、作るまでに時間がかかると考えています。子供向けといいましても、小学1年生と6年生では違うので。

出委員：できれば段階に分けて。

事務局：そこもよく理解していますが、最初に作るとなると、そういうところは例えば学校の先生とかの意見をふまえながらわかりやすい資料を作っていければなと思いますし、新しい人の知恵を入れながらやっていきたい、新しく来た人が新しい知見で初めて見る視点でやっていただければなと考えていますので、順番に手を付けていきたいと思います。

出委員：ここの学芸員がたの中に、エジュケーターの専門のかたか、全員が同じように仕事を分散させてしているというようなことでしょうか。

事務局：そうですね。企画展を一人1つ以上割り振ったうえで、そのほかに別な業務を負担するというので、学校との連携に関しましては、いろいろなところからご指摘を受けているので、力を入れていきたいかなと思っております。

島内委員：小学校低学年や幼児の教育なら柴田幼稚園にいただければ、子どもたちの反応を見ることができるので、わかりやすい資料の作成に役立てるかと思えます。

事務局：ありがとうございます。実は、今年度、冬場どうしても人が少なくなるので、博物館と歴史館で冬のスタンプラリーというのをやることの予定です。要するに両館見て応募すると、来年の特別展のただ券が当たるとか図録がもらえるとか、子どもさんだけではなくて連れていく親にもメリットがあるようなスタンプラリーにしたいと思っているので、そういうのも含めて、どうしても子どもさん来るといっても学校と来るか親が連れてこないとなかなかこれないので、動機づけになるようなことを一つ一つやっていきたいと思えます。そういう意味で夏にやったヤーヤドンは、親やおじいさんがつれてきたりしていた光景だった、あいにくの天気で集客はそれほどでなかったのもそういうこともあったが手を変え品を変えいろいろやっていきたいと思えます。

瀧本委員：情報発信の件で、ホームページはこちらからアクセスしないとみられない。学生はラインでどんどん必要な情報を流している。必要な人、やりたい人に、博物館から情報を流してはどうなんでしょうか。

出委員：ラインの公式アカウントつくれますよ。それでどんどん流すシステム。

事務局：ラインは一時期情報漏洩の問題があっちょっと市では下火になっています。今考えているのはツイッターでフォローしてもらうらう、インスタもやっているんですが、どうしてもインスタは写真がメインになってきて、また、ツイッターは発信時間が予約できる、結局定期的に更新しないと人が離れていくので、例えば担当者が休みでも予約をしておけば毎日発信できるという機能はツイッターの方がいいので、そういうのを含めて検討中でございます。

出委員：たぶんですが世代によって利用する SNS が違うので、どこにターゲッ

	<p>トを置くかだと思うのですが、中高年だとフェイスブックのほうが断然やっている人が多いし、インスタは若い人しか見ていないし、10代とかどこに向かって発信するのかというところで選ぶメディアが変わってくる。</p> <p>事務局：歴史館のアンケート結果なんですけれども、やはりSNSとかは50代以下がメインになっている、全世代的に情報収集しているのは広報、50代以上のかたはほぼほぼ広報で、そのほか口コミというのが有力になってきますので、そこに関しましては、もちろん広報という紙媒体のものを基にして、数年前の情報ですがツイッターはある程度全年齢層に普及しているという結果がありますので、それプラス口コミをどうするかなというのをやっていきたいと思っています。届けたい人に情報が届いていないというのは感じておりますので、そこについては機会をみて一つ一つやっていければなあと思っています。</p> <p>葛西委員：ここ10年20年の博物館の内容は素晴らしく変わってきた。広報活動にしてもその他見せ方にしても、本当に上質なものを提供している。年々変わってきていると感じています。あと望むべきは紀要です。長年の課題だと思いますけれども、やっぱり弘前の博物館としての顔、重きをおいたものを作っていただければ。紀要がないのは一流ではないです。ですからそこまでたどり着けるような博物館であってほしい。非常に難しいことだとは思いますがあきらめないでがんばってほしいと思っています。</p> <p>事務局：それに関しましては、先日WEBで博物館長研修を受け、当館の学芸員の人数を答えたところ、学芸員の数が少ないと全国の博物館長から言われまして、継続的に学芸員を採用するように人事当局に働きかけをしているので、ある程度的人数が増えてくれば、紀要の前に、まず個人の研究成果をまとめるとか、そういうことが必要になってくると思うので、そういうことをやっていったうえで、博物館の展示も充実させていきたいと考えています。</p> <p>葛西委員：市民の誇りである博物館という風になってもらいたい。今それに向かって進んでいるところだと思いますが。</p> <p>議長：他にございますでしょうか。</p> <p>(なし)</p> <p>議長：それではそろそろお約束の時間になると思いますので、以上をもって終了いたします。ご協力ありがとうございました。</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は公開 ・傍聴者数 0人